

- go.jp/pfcj/pdf/kyouikuhi\_h16.pdf, 2004. 12. 26).
- 小西祐馬 (2003) 「第2章 貧困と子ども」青木 紀編著『現代日本の「見えない」貧困——生活保護受給母子世帯の現実』明石書店, 85-109.
- 小西祐馬 (2004) 「就学援助制度の現状と課題」『北海道大学大学院教育学研究科紀要』95.
- 厚生労働省社会・援護局 (2005) 「平成17年 全国厚生労働関係部局長会議資料 3 生活保護制度について」(<http://www.mhlw.go.jp/topics/2005/bukyoku/syakai/1-j3.html>, 2005. 3. 11).
- 宮本みち子 (2004) 『ポスト青年期と親子戦略——大人になる意味と形の変容』勁草書房.
- 日本学生支援機構 (2004) 「平成15事業年度 業務報告書」(<http://www.jasso.go.jp/jyouhoukoukai/ikuei/15/15gyoumu.pdf>, 2004. 12. 26).
- 日本育英会 (1953) 『日本育英会十年誌』日本育英会.
- 西山和広 (2002) 「奨学金と修学保障について」『月刊人権問題』309, 11-4.
- 橋本俊詔 (1998) 『日本の経済格差—所得と資産から考える』岩波新書.
- 橋本俊明編著 (2004) 『封印される不平等』東洋経済新報社.
- 鳥山まどか (2002) 「母子世帯の家計に関する研究——動向と課題」『教育福祉研究』8, 1-11.
- 鳥山まどか (2003a) 「母子世帯の家計と管理——子どもの教育・進学の問題に関連して」『教育福祉研究』9, 23-36.
- 鳥山まどか (2003b) 「第4章 家計と管理の階層性」青木 紀編著『現代日本の「見えない」貧困——生活保護受給母子世帯の現実』明石書店, 133-59.
- 鳥山まどか (2004) 「M. ナスバウム の潜在能力アプローチに関する研究ノート——ソーシャルワークに示唆するもの」『北海道大学大学院教育学研究科紀要』95, 179-90.
- 埋橋孝文 (1997) 『現代福祉国家の国際比較——日本モデルの位置づけと展望』日本評論社.
- 全国社会福祉協議会 (1968) 『民生委員制度五十年史』全国社会福祉協議会.

## The Welfare Educational Fund Loan for Poor and Low-income Families

Madoka TORIYAMA

The welfare educational fund loan is used by poor and low-income families that are ineligible for major student loans because of a low or unstable income or unstable job or the low grades of their children. This educational fund loan has ensured that educational opportunities are provided for children from such families. In this sense, the loan functions as a social welfare service. This service, however, has substantial limitations because ensuring that educational opportunities are provided is not always linked to economic independence. And like other major student loans, users should repay borrowed funds so that they ultimately bear the burden of their educational expenses. In some instances, using this system could also serve as the source of new risks. To prevent the reproduction of intergenerational poverty resulting from inequality of family resources, a social work response is needed for those families at the same time as more obvious financial support.

**Key Words** : Livelihood welfare fund system, Welfare educational fund loan, Poor and low-income families, Educational expenses

# 生活福祉資金（修学資金）貸付制度の現状と課題に関する 調査結果

鳥山 まどか・岩田 美香

## 1. 調査の目的と概要

### (1) 調査の目的

本研究の主な目的は、修学資金の利用効果の分析である。しかし、修学資金については生活福祉資金、母子寡婦福祉資金ともに、償還率の把握はされていても、それ以外のデータの積み上げはほとんどなされてこなかった。そこでまずは、これらの制度についての基礎的なデータ（利用者の生活実態や制度利用後の状況、返済の状況等）を提供することを通じ、これらの資金の意義を考えていくものとする。すでに北海道内においては、生活福祉資金および母子寡婦福祉資金の利用に関するデータの収集・分析を行ってきており、今回は、北海道外（N県）における生活福祉資金利用者へのアンケート調査の結果を報告する。

なお、本研究は「福祉資金貸付制度の効果と課題に関する研究」（代表：青木紀、厚生労働省科学研究費補助金・政策科学推進研究事業・課題番号H16-政策-004）の交付を受けた研究の一部である。

### (2) 調査の概要

#### 1) 手続きと期間

N県社会福祉協議会の協力を得て、1998年度以降の修学資金利用者（就学した子どもの保護者である借受人または連帯借受人）に、本調査への協力依頼を送付した（544通）。179通の返答があり、そのうち136通が協力可能であるとの返答であった（宛先不明による返送が22通）。このうち、複数の子どもの借受などによる重複を除く103世帯へ質問紙を郵送し、81通を回収した（質問紙の回収率は78.6%）。なお、利用者のプライバシーの保護から、協力依頼および質問紙の宛名書き、郵

送、回収はすべてN県社会福祉協議会が実施した。

調査期間は、2005年9月中旬に協力依頼を送付し、10月中に回答があった世帯に対して、11月上旬に質問紙を送付した。これらの手続きを経て、12月中に返送されてきたものを分析の対象とした。

#### 2) 調査内容

- ・資金の利用の内容（資金を利用して就学した学校、借入金額とそれに対する評価）
- ・資金利用のいきさつ（情報の入手、当時の家庭の状況）
- ・申し込み手続き（手続きに対する評価、子どもとの相談）
- ・資金利用後の子どもの状況（卒業とその後の進路、就職の状況、現在の子どもの状況）
- ・連帯借受人世帯の生活状況（子どもとの同居の有無、現在の生活状況、世帯年収）
- ・資金の返済について（返済の状況、返済の負担感や困難さ）

なお調査項目の詳細は、資料「生活福祉資金・修学資金アンケート」を参照のこと。

## 2. 「生活福祉資金・修学資金アンケート」による調査結果

### (1) 修学資金利用の内容

#### 1) 回答者の属性

表1 回答者の属性（単位：人、%）

父 母	77 ( 95.1)
祖父母	1 ( 1.2)
その他	3 ( 3.7)
合 計	81 (100.0)

## 2) 子どもの就学先

表2 修学資金の利用時期  
(単位：人、%)

高校等利用者	15 (18.5)
大学等利用者	59 (72.8)
2回利用者	7 (8.6)
合計	81 (100.0)

注)「高校等利用者」とは、高等学校、高等専門学校への就学のためにこの資金を利用した世帯、「大学等利用者」とは、大学、短期大学、専修学校への就学のためにこの資金を利用した世帯を指す。また、「2回利用者」とは、高校と大学などのように、一人の子どもが2回にわたって修学資金を利用した世帯を指す(以下同様)。

表3-1) 子どもが修学資金を使って行った学校  
(高校時) (単位：人、%)

	高校等利用者	2回(高校時)
公立高校	8 (53.3)	6 (85.7)
私立高校	7 (46.7)	1 (14.3)
合計	15 (100.0)	7 (100.0)

表3-2) 子どもが修学資金を使って行った学校  
(大学時) (単位：人、%)

	大学等利用者	2回(大学時)
公立大学	5 (8.5)	0 (0.0)
私立大学	33 (55.9)	2 (28.6)
公立短期大学	0 (0.0)	1 (14.3)
私立短期大学	2 (3.4)	3 (42.9)
公立専門学校	2 (3.4)	0 (0.0)
私立専門学校	8 (13.6)	1 (14.3)
その他	2 (3.4)	0 (0.0)
無回答	7 (11.9)	0 (0.0)
合計	59 (100.0)	7 (100.0)

## 3) 借入金額

表4 借入の内容 (単位：人、%)

	高校等利用者	大学等利用者	2回利用者
修学費のみ	8 (53.3)	25 (42.4)	1 (14.3)
就学支度費のみ	1 (6.7)	3 (5.1)	0 (0.0)
修学費と就学支度費	6 (40.0)	25 (42.4)	6 (85.7)
無回答	0 (0.0)	6 (10.2)	0 (0.0)
合計	15 (100.0)	59 (100.0)	7 (100.0)

表5-1) 借入の総額(高校等利用者、大学等利用者)  
(単位：人、%)

	高校等利用者	大学等利用者
10~30万円未満	1 (6.7)	0 (0.0)
~50万円未満	6 (40.0)	2 (3.4)
~100万円未満	3 (20.0)	7 (11.9)
~150万円未満	2 (13.3)	11 (18.6)
~200万円未満	0 (0.0)	10 (16.9)
200万円以上	2 (13.3)	24 (40.7)
無回答	1 (6.7)	5 (8.5)
合計	15 (100.0)	59 (100.0)

表5-2) 借入の総額(2回利用者)  
(単位：人、%)

	2回利用者
50~100万円未満	1 (14.3)
~150万円未満	1 (14.3)
~200万円未満	2 (28.6)
~250万円未満	1 (14.3)
~300万円未満	2 (28.6)
合計	7 (100.0)

表6 借入れた金額で子どもの就学に足りたか  
(単位：人、%)

	高校等利用者	大学等利用者	2回利用者
足りなかった	11 (73.3)	42 (71.2)	7 (100.0)
足りた	4 (26.7)	13 (22.0)	0 (0.0)
無回答	0 (0.0)	4 (6.8)	0 (0.0)
合計	15 (100.0)	59 (100.0)	7 (100.0)

表7 足りなかった場合、足りない分はどうしたか  
(複数回答) (単位：人、%)

(回答者数)	高校等利用者 (11人)	大学等利用者 (42人)	2回利用者 (7人)
預貯金を使った	4 (36.4)	28 (66.7)	4 (57.1)
生活費を切り詰めた	8 (72.7)	29 (69.0)	5 (71.4)
生活保護費から補った	1 (9.1)	0 (0.0)	1 (14.3)
子どもがアルバイト等で補った	7 (63.6)	23 (54.8)	2 (28.6)
他の奨学金・修学資金等を利用	3 (27.3)	18 (42.9)	4 (57.1)
授業料免除を利用	3 (27.3)	4 (9.5)	2 (28.6)
親戚・知人の援助	1 (9.1)	8 (19.0)	3 (42.9)
民間ローン等利用	1 (9.1)	4 (9.5)	2 (28.6)
補えずに退学した	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
その他	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

〈借入金額に関する自由回答〉

- ・修学金を返済するときより、修学している時の方が大変なので、もっと貸付金を上げてほしいと思う。(大学等利用者)
- ・どれだけ助かったか、感謝しているが、45万という限度額は少なく苦勞した。同じ貸付けてくれるなら、入学金分位(60万)は必要であった。国立大へ自宅から通学するなら別だが、このN県は大学が少なく、どうしても東京へ行かざるを得ない地域性をもっと考えて欲しい。(大学等利用者)
- ・修学資金の制度が変更になり、支度費分しか借りられず、予定した金額と違い大変でした。毎月、借りられたら良かったのですが、借りた時が無利息で助かりました。返済も利息が無い分、返済しやすいです。(大学等利用者)

(2) 修学資金利用の経緯

1) 制度をどのように知ったか

〈制度認知に関する自由回答〉

- ・入学当時、生活保護を受給していたが、進学の際に市及びケースワーカー、民生委員の誰もが教えてくれなかった。知っていて、あえて教えてくれなかったのか、この制度を知らなかったのか、全く未だ理解出来ない。PRしようとしていない。(大学等利用者)

2) 修学資金の利用に至った経緯

〈修学資金の利用に結びついた出来事に関する自由回答〉

- ・兄弟がいる場合、第一子の場合、教育に関していくらかかるか、いくらかければ良いのかわからないで、高校に出してみても初めて足りない事

がわかる。第一子の時は、頑張っても第二子・第三子となると、重なってきて、ギリギリの生活になる。家族に一人でも病人が出て、それも自営の場合になると、社会保障が少なく、公的機関のこの制度はありがたかったです。しかし、利用できる条件が厳しいので、もう少し門戸が開けたら……とも思いました。(高校等利用者)

- ・この時期2年ほど前に、父親が失業して、バイトみたいだったので、余裕がなく、お借りしました。おかげ様で、子どもも事情がかわり、それなりに頑張ってくれましたので、ありがとうございました。(大学等利用者)
- ・当時は祖父の闘病があり、母も正社員としての勤めが難しい状況でしたので、本当に助かりました。無事卒業した時は、とてもうれしかったです。(大学等利用者)
- ・利用しました子どもの父親が一級の障害者にて収入がなく、大学を出すのに心配しましたが、この制度を教えていただき、何とか大学を出すことができ、大変感謝しています。そのおかげで子どもは外国語を習得し、現在の勤務先で活用し、生き生きと生活しています。(大学等利用者)
- ・大学入学直前に主人が死亡し、収入がストップし困りましたので、大変助かりました。ありがとうございました。(大学等利用者)
- ・母親一人の収入のために生活が困難の為に相談しました所、対象となることを知り利用させていただきました。随分お互いに生活を切り詰めていましたが、おかげさまで無事卒業をし、仕

表8 この制度をどこで知ったか(複数回答)  
(単位:人、%)

(回答者数)	高校等利用者 (14人)	大学等利用者 (56人)	2回利用者 (6人)
民生委員	6 (42.9)	12 (21.4)	3 (50.0)
ケースワーカー	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
パンフレット等	2 (14.3)	15 (26.8)	1 (16.7)
知人	2 (14.3)	15 (26.8)	2 (33.3)
学校	4 (28.6)	5 (8.9)	0 (0.0)
その他	1 (7.1)	9 (16.1)	0 (0.0)

表9 修学資金の利用に結びついた出来事  
(複数回答) (単位:人、%)

(回答者数)	高校等利用者 (15人)	大学等利用者 (59人)	2回利用者 (7人)
世帯主の失業	3 (20.0)	13 (22.0)	1 (14.3)
世帯主の疾病	5 (33.3)	11 (18.6)	2 (28.6)
家族の失業	1 (6.7)	0 (0.0)	2 (28.6)
家族の疾病	3 (20.0)	5 (8.5)	1 (14.3)
収入が少ない	8 (53.3)	52 (88.1)	5 (71.4)
預貯金の不足	9 (60.0)	41 (69.5)	5 (71.4)
他の負債の返済	4 (26.7)	20 (33.9)	2 (28.6)

事についております。お世話になりました。(大学等利用者)

・双子を東京の大学に入れたので、学費、生活費と大変だったので、借りられたことを大変喜んでおります。ありがとうございました。この制度が続けられることを願っております。(大学等利用者)

・私が借りた理由は、妻が亡くなり、上の子が8才、下の子が5才でした。妻は県職員で、2人の子の扶養者でしたが、私が男という理由で、父子年金が出ませんでした。妻の両親もなく、私(養子)の両親もなく、妻は一人っ子ですし、生活に困り、私も何年間かは一人で頑張りましたが、私の兄、兄嫁が面倒を見てくれるという事で実家に戻り、9年間お世話になりました。今は自分の家に戻り、親子三人で生活していますが、借入れは生活福祉資金これ一つです。この資金のおかげでもありますが、預貯金、生活の切り詰めで頑張ってきた。今、子どもに結婚資金も出してやれず、下水道工事も出来ず(近所で私の家だけ)今も苦勞しています。私はこの生活福祉資金は非常にありがたく思っていますが、父子年金が出ていれば、もっと違う生活が出来たと思っています。この感想とは、ずれているかもしれませんが、これが私の意見です。このアンケートで、より多くの子ども達が社会へ出る前の一步につながればと思い、いやいやながら書きました。(2回利用者)

### (3) 修学資金利用の手続き

#### 1) 申し込み手続きに対する評価

〈手続きに関する自由回答〉

・病気や失業などで、この制度を利用してなんとか生活をたて直してがんばろうと思って申し込んでも、保証人をつけてくれとか、申込みが面倒で時間がかかりすぎる。この制度を利用する人は失業や銀行から借入れが難しいので利用したいんで、銀行と同じじゃ前向きに生活をしようとする気持ちも薄れてしまう。県や国も、もっと下の下の生活をわかってほしいと思います。(高校等利用者)

表10 利用の手続きは面倒だったか

(単位:人、%)

	高校等利用者	大学等利用者	2回利用者
簡単だった	6 (40.0)	23 (39.0)	2 (28.6)
めんどろだった	8 (53.3)	34 (57.6)	4 (57.1)
無回答	1 (6.7)	2 (3.4)	1 (14.3)
合計	15 (100.0)	59 (100.0)	7 (100.0)

表11 必要な書類をそろえるのは面倒だったか

(単位:人、%)

	高校等利用者	大学等利用者	2回利用者
簡単だった	7 (46.7)	26 (44.1)	2 (28.6)
めんどろだった	7 (46.7)	30 (50.8)	3 (42.9)
無回答	1 (6.7)	3 (5.1)	2 (28.6)
合計	15 (100.0)	59 (100.0)	7 (100.0)

表12 貸付までの日数はどうだったか

(単位:人、%)

	高校等利用者	大学等利用者	2回利用者
かからなかった	7 (46.7)	42 (71.2)	1 (14.3)
かかりすぎた	6 (40.0)	12 (20.3)	3 (42.9)
無回答	2 (13.3)	5 (8.5)	3 (42.9)
合計	15 (100.0)	59 (100.0)	7 (100.0)

- ・合格発表直後に手続きをしたが、二ヶ月の審査期間は余りにも長く、その間に支出すべき金額が、期限も来て、四苦八苦した(決定か不明のため)。絶対要望したいのは、日本学生支援機構で行われているような「予約制」を採用し、合格発表者数がわかったら、予め必要書類を用意(申込者、保証人関係、所得証明など)出来て、すぐ提出出来るようにすれば、少なくとも入学金納入期限に間に合うことが出来ると思う。又、そうありがたいものだと思う。(大学等利用者)
- ・大変お世話様になりましてありがとうございました。私は直接に家へ来て、今の状態を聞く人(近所のおばさん→民生委員?)に良い気持ちはしませんでした。勝手な事を申して誠にすみません。お仕事なのにゴメンナサイ。でも近所のおばさん(民生委員?)本当にいやでした。市役所の係の方ではダメだったのでしょうか?(大学等利用者)
- ・特別な事情(生活保護、疾病等)が無い限り、

民生委員の関与は必要ではないと思う。(大学等利用者)

## 2) 申し込み時の子どもとの話し合い

表13 申し込み時に子どもと修学資金の利用について話合ったか (単位:人、%)

	高校等利用者	大学等利用者	2回利用者
話しかけた	11 (73.3)	43 (72.9)	4 (57.1)
特に話合わなかった	4 (26.7)	13 (22.0)	2 (28.6)
無回答	0 (0.0)	3 (5.1)	1 (14.3)
合計	15 (100.0)	59 (100.0)	7 (100.0)

## (4) 修学資金利用後の子どもの状況

### 1) 子どもの進路

表14 子どもは学校を卒業したか (単位:人、%)

	高校等利用者	大学等利用者	2回利用者
卒業した	13 (86.7)	39 (66.1)	7 (100.0)
卒業しなかった	0 (0.0)	1 (1.7)	0 (0.0)
在学中	2 (13.3)	17 (28.8)	0 (0.0)
無回答	0 (0.0)	2 (3.4)	0 (0.0)
合計	15 (100.0)	59 (100.0)	7 (100.0)

表15 卒業した場合(表14)の、卒業後の進路 (単位:人、%)

	高校等利用者	大学等利用者	2回利用者
就職した	11 (84.6)	37 (94.9)	7 (100.0)
進学した	2 (15.4)	0 (0.0)	0 (0.0)
その他	0 (0.0)	2 (5.1)	0 (0.0)
合計	13 (100.0)	39 (100.0)	7 (100.0)

### 2) 卒業後に就職した場合の子どもの状況

表16 就職した場合(表15)の、就職先の雇用形態 (単位:人、%)

	高校等利用者	大学等利用者	2回利用者
正社員・正職員	8 (72.7)	31 (83.8)	5 (71.4)
派遣社員	1 (9.1)	1 (2.7)	0 (0.0)
嘱託	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)
パート・フリーター	1 (9.1)	0 (0.0)	1 (14.3)
自営・内職	0 (0.0)	2 (5.4)	0 (0.0)
その他	0 (0.0)	1 (2.7)	0 (0.0)
無回答	1 (9.1)	2 (5.4)	0 (0.0)
合計	11 (100.0)	37 (100.0)	7 (100.0)

表17 就職した場合(表15)の、仕事の内容 (単位:人、%)

	高校等利用者	大学等利用者	2回利用者
専門・技術的職業	1 (9.1)	16 (43.2)	2 (28.6)
管理的職業	1 (9.1)	1 (2.7)	0 (0.0)
事務	1 (9.1)	7 (18.9)	1 (14.3)
販売	1 (9.1)	3 (8.1)	0 (0.0)
サービス	1 (9.1)	2 (5.4)	1 (14.3)
保安職業	1 (9.1)	1 (2.7)	0 (0.0)
運輸・通信	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (28.6)
製造・製作作業	3 (27.3)	3 (8.1)	0 (0.0)
採掘・建設・労務作業	2 (18.2)	1 (2.7)	0 (0.0)
その他	0 (0.0)	1 (2.7)	0 (0.0)
無回答	0 (0.0)	2 (5.4)	1 (14.3)
合計	11 (100.0)	37 (100.0)	7 (100.0)

表18 就職した場合(表15)の、子どもの現在の状況 (単位:人、%)

	高校等利用者	大学等利用者	2回利用者
上記の仕事を継続	6 (54.5)	22 (59.5)	3 (42.9)
別の仕事に就いている	2 (18.2)	7 (18.9)	1 (14.3)
フリーター	1 (9.1)	0 (0.0)	0 (0.0)
専業主婦/主夫	0 (0.0)	3 (8.1)	0 (0.0)
在学中	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)
無回答	2 (18.2)	5 (13.5)	2 (28.6)
合計	11 (100.0)	37 (100.0)	7 (100.0)

### 2) 卒業後、さらに進学した場合の子どもの状況

表19 進学した場合(表15)の、利用した制度 (複数回答) (単位:人、%)

	高校等利用者
母子寡婦福祉資金	回答者なし
国の教育ローン	
日本育英会	
その他	

表20 進学した場合(表15)の、子どもの現在の状況 (単位:人、%)

	高校等利用者	大学等利用者	2回利用者
仕事に就いている	2 (100.0)	該当者なし	該当者なし
合計	2 (100.0)		

3) 卒業後の進路が「その他」の場合の子どもの状況

表 21 卒業後の進路が「その他」の場合(表 15)の、子どもの現在の状況 (単位:人、%)

	高校等利用者	大学等利用者	2回利用者
仕事に就いている 専業主婦/主夫	該当者なし	1 (50.0) 1 (50.0)	該当者なし
合計		2 (100.0)	

4) 卒業しなかった場合の子どもの状況

表 22 学校を卒業しなかった場合(表 14)の、子どもの現在の状況 (単位:人、%)

	高校等利用者	大学等利用者	2回利用者
仕事に就いている	該当者なし	1 (100.0)	該当者なし
合計		1 (100.0)	

(5) 親世帯の現在の状況

1) 子どもとの同居の有無

表 23 子どもと同居しているか (単位:人、%)

	高校等利用者	大学等利用者	2回利用者
同居している	8 (53.3)	17 (28.8)	3 (42.9)
同居していない	7 (46.7)	41 (69.5)	4 (57.1)
無回答	0 (0.0)	1 (1.7)	0 (0.0)
合計	15 (100.0)	59 (100.0)	7 (100.0)

表 24 子どもは現在どのように生活しているか (単位:人、%)

	高校等利用者	大学等利用者	2回利用者
自分の収入で生活	11 (73.3)	38 (64.4)	4 (57.1)
結婚相手の収入で生活	1 (6.7)	5 (8.5)	0 (0.0)
在学中なので親が扶養	2 (13.3)	13 (22.0)	1 (14.3)
その他	0 (0.0)	3 (5.1)	0 (0.0)
無回答	1 (6.7)	0 (0.0)	2 (28.6)
合計	15 (100.0)	59 (100.0)	7 (100.0)

2) 親世帯の収入状況

表 25 回答者世帯は現在どのように収入を得ているか(複数回答) (単位:人、%)

(回答者数)	高校等利用者 (15人)	大学等利用者 (59人)	2回利用者 (7人)
仕事によって	13 (86.7)	54 (91.5)	5 (71.4)
年金	8 (53.3)	25 (42.4)	4 (57.1)
生活保護	2 (13.3)	0 (0.0)	0 (0.0)
仕送り	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
その他	0 (0.0)	1 (1.7)	0 (0.0)

表 26 仕事によって収入を得ている場合(表 25)の、雇用形態 (単位:人、%)

	高校等利用者	大学等利用者	2回利用者
正社員・正職員	7 (53.8)	24 (44.4)	2 (40.0)
嘱託	0 (0.0)	2 (3.7)	0 (0.0)
臨時・季節雇用	2 (15.4)	2 (3.7)	0 (0.0)
パート・フリーター	1 (7.7)	6 (11.1)	1 (20.0)
自営・内職	2 (15.4)	19 (35.2)	2 (40.0)
無回答	1 (7.7)	1 (1.9)	0 (0.0)
合計	13 (100.0)	54 (100.0)	5 (100.0)

表 27 仕事によって収入を得ている場合(表 25)の、仕事の内容 (単位:人、%)

	高校等利用者	大学等利用者	2回利用者
専門・技術的職業	0 (0.0)	7 (13.0)	1 (20.0)
管理的職業	0 (0.0)	4 (7.4)	1 (20.0)
事務	0 (0.0)	1 (1.9)	0 (0.0)
販売	3 (23.1)	7 (13.0)	0 (0.0)
サービス	1 (7.7)	7 (13.0)	2 (40.0)
保安職業	1 (7.7)	0 (0.0)	0 (0.0)
農林漁業	2 (15.4)	3 (5.6)	0 (0.0)
運輸・通信	0 (0.0)	1 (1.9)	0 (0.0)
製造・製作作業	4 (30.8)	10 (18.5)	1 (20.0)
採掘・建設・労務作業	1 (7.7)	5 (9.3)	0 (0.0)
無回答	1 (7.7)	9 (16.7)	0 (0.0)
合計	13 (100.0)	54 (100.0)	5 (100.0)

表 28 税込み年収(表 25の合計) (単位:人、%)

	高校等利用者	大学等利用者	2回利用者
200万円未満	3 (20.0)	6 (10.2)	3 (42.9)
~300万円未満	0 (0.0)	21 (35.6)	2 (28.6)
~500万円未満	4 (26.7)	17 (28.8)	1 (14.3)
~700万円未満	3 (20.0)	5 (8.5)	0 (0.0)
~1000万円未満	1 (6.7)	5 (8.5)	0 (0.0)
1000万円以上	0 (0.0)	1 (1.7)	0 (0.0)
無回答	4 (26.7)	4 (6.8)	1 (14.3)
合計	15 (100.0)	59 (100.0)	7 (100.0)

(6) 修学資金の返済

1) 返済についての子どもとの話し合い

表29 返済について子どもと話合ったか  
(単位:人、%)

	高校等利用者	大学等利用者	2回利用者
申込時に話合った	9 (60.0)	32 (54.2)	3 (42.9)
あとから話合った	3 (20.0)	5 (8.5)	1 (14.3)
特に話合わなかった	3 (20.0)	19 (32.2)	1 (14.3)
無回答	0 (0.0)	3 (5.1)	2 (28.6)
合計	15 (100.0)	59 (100.0)	7 (100.0)

2) 返済の状況

表30 現在の返済状況  
(単位:人、%)

	高校等利用者	大学等利用者	2回利用者
現在返済している	7 (46.7)	18 (30.5)	3 (42.9)
これから返済開始	0 (0.0)	17 (28.8)	1 (14.3)
返済完了している	7 (46.7)	21 (35.6)	2 (28.6)
無回答	1 (6.7)	3 (5.1)	1 (14.3)
合計	15 (100.0)	59 (100.0)	7 (100.0)

表31 返済中の場合(表30)の、返済者  
(単位:人、%)

	高校等利用者	大学等利用者	2回利用者
子ども本人	4 (57.1)	6 (33.3)	0 (0.0)
親	3 (42.9)	9 (50.0)	2 (66.7)
子どもの祖父母	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)
無回答	0 (0.0)	3 (16.7)	0 (0.0)
合計	7 (100.0)	18 (100.0)	3 (100.0)

表32 返済中の場合(表30)、どこから返済しているか  
(単位:人、%)

	高校等利用者	大学等利用者	2回利用者
給料など	5 (71.4)	8 (44.4)	0 (0.0)
年金	0 (0.0)	2 (11.1)	3 (100.0)
生活保護	2 (28.6)	0 (0.0)	0 (0.0)
預貯金	0 (0.0)	4 (22.2)	0 (0.0)
その他	0 (0.0)	3 (16.7)	0 (0.0)
無回答	0 (0.0)	1 (5.6)	0 (0.0)
合計	7 (100.0)	18 (100.0)	3 (100.0)

表33 返済中の場合(表30)の、返済月額  
(単位:人、%)

	高校等利用者	大学等利用者	2回利用者
5,000円未満	0 (0.0)	1 (5.6)	0 (0.0)
~10,000円未満	3 (42.9)	2 (11.1)	1 (33.3)
~15,000円未満	2 (28.6)	4 (22.2)	0 (0.0)
~20,000円未満	0 (0.0)	2 (11.1)	2 (66.7)
20,000円以上	1 (14.3)	8 (44.4)	0 (0.0)
無回答	1 (14.3)	1 (5.6)	0 (0.0)
合計	7 (100.0)	18 (100.0)	3 (100.0)

表34 返済中の場合(表30)の、返済の負担感  
(単位:人、%)

	高校等利用者	大学等利用者	2回利用者
非常に負担が大きい	2 (28.6)	1 (5.6)	2 (66.7)
ある程度負担を感じる	3 (42.9)	11 (61.1)	1 (33.3)
それほど負担ではない	2 (28.6)	4 (22.2)	0 (0.0)
負担は感じていない	0 (0.0)	1 (5.6)	0 (0.0)
無回答	0 (0.0)	1 (5.6)	0 (0.0)
合計	7 (100.0)	18 (100.0)	3 (100.0)

表35 返済中の場合(表30)の、滞納状況  
(単位:人、%)

	高校等利用者	大学等利用者	2回利用者
滞納していない	6 (85.7)	16 (88.9)	2 (66.7)
6ヶ月未満の滞納	0 (0.0)	1 (5.6)	1 (33.3)
1年以上の滞納	1 (14.3)	0 (0.0)	0 (0.0)
わからない	0 (0.0)	1 (5.6)	0 (0.0)
合計	7 (100.0)	18 (100.0)	3 (100.0)

表36 返済中の場合(表30)の、返済に関わる出来事  
(複数回答)  
(単位:人、%)

(回答者数)	高校等利用者 (7人)	大学等利用者 (18人)	2回利用者 (3人)
生活費の節約	5 (71.4)	11 (61.1)	2 (66.7)
外出・交際費の節約	4 (57.1)	10 (55.6)	2 (66.7)
家賃・水道光熱費の遅れ	2 (28.6)	5 (27.8)	2 (66.7)
貯金ができない	5 (71.4)	11 (61.1)	3 (100.0)
他からの借入で返済	3 (42.9)	1 (5.6)	2 (66.7)
その他	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

〈返済に関する自由回答〉

- ・本当にその当時は助かりまして、本当ありがたいです。無利子で貸していただいたので、必ずお返しするつもりです。おかげ様で子どもも立派に成長して、返済の事を気にしてくれています。母子家庭で3年前に転職しましたもので、



収入もかなり減りました。でもあとわずかとなりましたので、私の力でがんばってお返ししたいと思います。(大学等利用者)

- 資金の貸付をしていただいてありがたかったです。現在は返済をしていますが、生活が苦しいです。近々社協に相談に行こうと思っています。(大学等利用者)
- 祖父母、83才、75才で何とか返済しています。命がけです。この返済がもう少し少なくて出来たら、家賃の返済、生活費がわずかですが、楽になります。年齢をこえての返済ですので、何とか暖かいご配慮をお願いしたいと思っています。孫一人のパートで毎月命をちぢめながら寒い日、暑い日、自転車で通勤する姿を見て、せつなくなります。その人いろいろな人間関係を配慮した上で力になって下さる事を要望いたします。信じられる国であってほしい。単なるアンケートと打ち消さないで、何かよい提案を打ち出して実行してください。税金の無駄な使用等、目に余る昨今です。わずかな資金を借りるのにあれだこれだと難しい事ばかり言わずに本当に心から困惑している人の味方になって下さい。よろしくおねがい致します。(2回利用者)
- 大変助かりました。うまく返済出来るか心配。返済が足りない月は何か手が無いものか。(2回利用者)

#### (7) その他の感想—自由回答より

- お借りすることが出来なかったら、学校へは行かせられませんでした。これからの方々にも貸付けて頂きますようお願いいたします。月々の返済も少なく、なんとかやってこれました。後に続く子ども達にも使わせて頂き、助けて頂きました。無事卒業をさせて頂くことになりました。助けて頂きました。ありがとうございました。(高校等利用者)
- 親が亡くなり、子どもだけになり、資金制度のお陰で高校卒業させる事が出来ました。不幸な環境にある子ども達のため充実した資金制度を望みます。(高校等利用者)
- 借入をお願いする頃は、雑費、食費が合わせて

1ヶ月7,000円で生活しており、私立高校だった為、余計にかかりましたが、借入れ出来た。喜び、感謝は忘れた事はありません。他からの借入れもあり、返済中ですが、今は7,000円の食費も15,000円で生活できる(息子と私とで)日々です。他人と比較すれば、少ないかもしれませんが、私共では、何とかやっています。それも息子が高校に入る時から「自分が返済していくから学校に行きたい。」と強い気持ちがあり、その約束を守り頑張っています。返済も一日も遅れたりした事なく、支払い中です。遅れたり、滞納している方も居る様ですが、借入れの時にしっかり自覚していくべきだと思います。気楽に考えている人には厳しく、(新車のりまわしたり、夜遊びしたり)生活があまりみだれている方の借入れは考えようですね。(高校等利用者)

- 修学資金を借りて、二人高校にいったので、大変助かりました。ありがとうございます。(高校等利用者)
- お借りした時には大変助かりました。是非この制度を続けていってください。ありがとうございました。(高校等利用者)
- 大変助かりました。子どもも頑張って3年間、通学できました。(高校等利用者)
- 銀行からも教育ローンが借りられない私共のような低所得者にとってとても頼りになる生活福祉資金には、感謝しております。まじめに働いても収入が多く得られない政府に対して私は大いに不満を持っています。少子化が問題になっている今、収入に関係なく、子どもが自由に進学できるような制度を国がきちんと援助してもらいたいと思います。子ども達のために一生懸命働いていますが、子どもが望む学校の資金を十分に用意してあげられない親の切なさをもっと知ってほしいと思います。本人はもちろんまじめに勉強し、就職してから返済する予定です。(大学等利用者)
- どこの家庭にも言えることでしょうけど、子どもの進学(主に大学等)をむかえる時、経済的な心配はつきまといまいます。又、資金の借入れに

ついても、悩むことです。その状況下、このような資金借入制度が利用でき、大変ありがたく思っています。それに子どもへ説明し、我家の現在の状況をわかっていただけることによって、進路についても本人なりに考えてくれます。まだ2人の子どもが進学を希望しております。もう1人は利用させて頂くことを希望しております。その時はよろしくお願いします。(大学等利用者)

- ・私は6人の子どもをそれぞれ大学校、大学で学ばせることができたのは、生活福祉資金を利用させていただいたおかげだと思っています。農村の様々な人間関係の中で、非常に悔しい思いも体験しました。できたらPRの充実と手続きの簡素化ができたらなあと思います。教育にものごくお金がかかる現状の中で、より幅広く利用させていただける努力をお願いします。(大学等利用者)
- ・子どもの勉強を伸ばしてやりたい親の気持ちから大学に入るようになり、本人も勉強したい気持ちもあり、大学に進める事は、大変良かった。この制度については一般にあまり知られていない。県に相談した結果、あったので私方としては大変に良かった。(大学等利用者)
- ・現在までは、卒業した息子には孫がいて幸せに生活しています。母子だったので、母子でがんばって、何とかやりました。子どももアルバイトをやり、親子でがんばれば、何とかなるという事を強く思いました。そして、生活福祉資金は、本当にありがたく思っています。世の中はだんだんと厳しくなりますが、勉強をしたい子ども達のために続けてほしいと思っています。(大学等利用者)
- ・修学資金を受けたお陰で、子どもに大学教育を受けさせることが出来て助かりました。今後も勉学を志す者には、こういう制度を維持して、教育の機会を与えて欲しいと思います。(大学等利用者)
- ・経済的な理由で修学が困難であるという事がありますので、是非貸付をしてほしいと思います。

(大学等利用者)

- ・大変助かりました。本当にありがたかったです。父親がいなかったので、どうしようかと考えた時がありました。今は、金融関係で働いています。もっと手続きが簡単だと良いと思いました。ありがとうございました。(大学等利用者)
- ・私は母子家庭ですので、この制度はとても助かりました。息子も卒業したら自分で返済することで借りました。ありがとうございました。(大学等利用者)
- ・修学資金の借入ができて、本当にたすかりました。もし貸して頂けなかったら、子どもを進学させられたかわかりません。本当に有難うございました。(大学等利用者)
- ・借入れができた事で、大学に通う事ができました。大変助かりました。無利子と長期返済が可能で微力な私でも決心できました。ありがとうございます。今後共よろしくお願い致します。(大学等利用者)
- ・資金が足りなかったもので、金利もなく、返済も私共の都合を計って頂けたので、助かりました。ありがとうございました。(大学等利用者)
- ・娘2人でしたので、姉の方に生活福祉資金を借入れしました。おかげで下の娘が大学進学の時には何とか借入れをしないで済みました。無利子で借入れができ、大変助かりました。(大学等利用者)
- ・娘は大学の3・4年の2年間にわたり利用させていただきました。大変たすかりました。ありがとうございます。現在、なるべく滞納しない様に返済している所でございます。(大学等利用者)
- ・無利子でしたので、滞ることなく返済でき、無事修学が終了し、感謝して居ります。ありがとうございます。(大学等利用者)
- ・息子の大学在学中は、資金を無利子でお借りする事ができ、とても助かりました。(大学等利用者)
- ・親が借りるのではなく、本人が借りるので、自覚をもって就学できる。我が家の場合は、ある

程度の人生生計ができているので、大学生ではあるが、ちまたの「遊び」にはほうけてない。あくまでも本人の借り受けという事が良い。人によっては、借金させてまでという人もいるが、遊びで借りるわけではないので良い。(大学等利用者)

- 2人の子どもが利用させていただきましたが、子どもが収入を得るようになってから個々の借入に責任を持って完済が出来た事は、少なからず自立心が身についたと思っております。ありがとうございました。(大学等利用者)
- 収入の少ない人が利用しやすい様にしてほしいと思っております。(大学等利用者)
- 修学資金のおかげで、一人は大学を卒業させてあげられるめどがつかしました。(大学等利用者)
- ちょうど子どもが2人ダブって進学していたので、とても助かりました。返済も無利子でしたので、その後の返済も助かりました。(大学等利用者)
- 修学資金を利用出来て、大変助かりました。今後、4年間で子どもが卒業できるとは限らない心配も出てきて、5年目はどうしたものかと……。最近の雇用の現状を見ると卒業した後は返済も子どもに出来るか心配です。(大学等利用者)
- 修学資金を利用させていただき大変助かっております。ありがとうございました。(大学等利用者)
- おかげさまで大いに役立たせて頂きました。(大学等利用者)
- 無利子で貸していただきまして有り難く思いました。(大学等利用者)
- ありがたい制度だと思います。(大学等利用者)
- おかげ様で、三人の子ども達は、社会人として、仕事・家庭とそれぞれガンバッテおります。他の借入れ(育英会)も、下の子の分が残っていますが、自分で返済しております。修学資金、生活福祉資金をお借りでき、IターンでK市に来て、収入面での不安をもちながらの生活も無事のりこえる事が出来ました。ありがとうございました

いました。(2回利用者)

- 大変ありがたく思っています。子どもも勉強が好きで、年金の中から仕送りしたいと思っています。本当にありがたく思います。(2回利用者)
- 利息のつかない事が大変ありがたかった。知人に紹介したら断られた。収入があったのか、はっきり答えてはくれなかった。(2回利用者)

#### 注

- 1) 北海道における修学資金に関する調査については、以下を参照されたい。北海道社会福祉協議会(2004)『生活福祉資金 修学資金貸付効果測定調査報告書』北海道社会福祉協議会、鳥山まどか・岩田美香(2005)「母子寡婦福祉資金(修学資金)貸付制度の現状と課題に関する調査報告」『教育福祉研究』11、43-65、鳥山まどか・岩田美香(2005)『母子寡婦福祉資金(修学資金)貸付制度の現状と課題に関する調査結果』北海道大学大学院教育学研究科・教育福祉論分野。

#### 資料「生活福祉資金 修学資金アンケート」

記入方法について

- 【1】 このアンケートは、連帯借受人の方が記入してください
- 【2】 複数のお子さんが利用している場合には、この資金を最初に利用したお子さんについてお答えください。
- 【3】 回答は、あてはまる番号に○をつけてください。(一部に複数選択もありますのでご留意ください)

以下からお答えください

1. あなたは、修学資金を利用したお子さんからみて、次のどれにあてはまりますか。  
①父母 ②祖父母 ③きょうだい  
④その他 ( )
2. 修学資金の利用の仕方として、あてはまるものに○をつけてください。  
①高校・高専(5年制の高等専門学校)に行くためにのみ利用した

[→ 3 にすすみます]

②高校と、その後の進学(大学・短期大学・専門学校)の2回にわたって利用した

[→ 14 にすすみます]

③高校より上の学校(大学・短期大学・専門学校)に行くためにのみ利用した

[→ 25 にすすみます]

☆上記2で「①高校・高専に行くためにのみ利用した」場合は、以下からお答えください。

【修学資金の利用状況についておうかがいします】

3. 修学資金を利用してお子さんが行った学校はどこですか。

①公立高校

②私立高校

③高専(5年制の高等専門学校)

④その他(学校名: )

4. 借入内容を教えてください。

①修学費のみ ②就学支度費のみ ③修学費と就学支度費

5. 借入の総額はいくらですか。

①10万円未満

②10万円～30万円未満

③30万円～50万円未満

④50万円～100万円未満

⑤100万円～150万円未満

⑥150万円～200万円未満

⑦200万円以上( )円

6. 借入れた金額でお子さんが学校に行くのに足りましたか。

①足りなかった → 7へすすみます

②足りた → 8へすすみます

7. 上記6で「①足りなかった」という場合、足りない分はどうしましたか。次のそれぞれについて、「①はい」か「②いいえ」のどちらかを選んでください。[→回答がすみしたら、8へすすみます]

7-(1) 預貯金を使った (①はい ②いいえ)

7-(2) 生活費を切り詰めた

(①はい ②いいえ)

7-(3) 生活保護費からおぎなった

(①はい ②いいえ)

7-(4) お子さんがアルバイトなどをしておぎなった

(①はい ②いいえ)

7-(5) 他の奨学金や修学資金などを利用した

(①はい ②いいえ)

(具体的に: )

7-(6) 授業料免除を利用した

(①はい ②いいえ)

7-(7) 親戚や知人からの援助があった

(①はい ②いいえ)

7-(8) 民間のローンなどを利用した

(①はい ②いいえ)

(具体的に: )

7-(9) おぎなえなかったため、退学した

(①はい ②いいえ)

7-(10) その他( )

【修学資金を利用した後の状況についておうかがいします】

8. お子さんは学校を卒業しましたか。

①卒業した → 9へすすみます

②卒業しなかった(中途退学など) → 13へすすみます

③在学中(休学をふくむ) → 36へすすみます

9. 上記8で「①卒業した」と回答された場合、卒業後の進路を教えてください。

①就職した → 10へすすみます

②進学した → 11へすすみます

③その他( ) → 12へすすみます

10. 上記9で「①就職した」と回答された方におうかがいします。

10-(1) お子さんの勤め先での雇用形態は次のどれでしたか。

①正社員・正職員(常勤)

②派遣社員

③嘱託

④臨時(季節雇用も含む)

⑤パートタイマー・フリーター

⑥自営・内職

⑦その他 ( )

10-(2) お子さんの仕事の内容は次の①～⑪のどれにあたりますか。もっともあてはまるものを1つだけ選んでください。

①専門的・技術的職業(看護師、教師、保育士、社会福祉専門職業従事者など)

②管理的職業(会社役員など)

③事務(一般事務、会計事務、集金人など)

④販売(仕入販売、不動産仲介、保険外交員、店員など)

⑤サービス(ホームヘルパー、美容師、調理人、アパート等管理人、ビル管理人など)

⑥保安職業(自衛官、警察官、消防士、警備員など)

⑦農林漁業

⑧運輸・通信(運転士、車掌など)

⑨製造・製作作業

⑩採掘・建設・労務作業(大工、とび職、配管作業、荷役、配達員、清掃員など)

⑪その他(具体的に: )

10-(3) 現在は、お子さんは何をされていますか。もっともあてはまるものを1つ選んでください。[→回答がすみしたら36へおすすみください]

①上記10-(2)の仕事が続いている

②別の仕事についている

③フリーターをしている

④専業主婦(主夫)をしている

⑤学校に行っている

⑥特に何もしていない

⑦その他 ( )

11. 上記9で「②進学した」と回答された方におうかがいします。

11-(1) 進学にあたって利用したものがあればすべて選んでください

①母子寡婦福祉資金

②国の教育ローン

③日本育英会(日本学生支援機構)

④その他 ( )

11-(2) お子さんは現在、何をされています

か。もっともあてはまるものを1つ選んでください。[→回答がすみしたら36へおすすみください]

①現在も学校に行っている

②仕事についている

③フリーターをしている

④専業主婦(主夫)をしている

⑤求職中である

⑥特に何もしていない

⑦その他 ( )

12. 上記9で「③その他」と回答された場合、お子さんの現在の状況としてもっともあてはまるものを1つ選んでください。[→回答がすみしたら36へおすすみください]

①もういちど学校に行っている

②仕事についている

③フリーターをしている

④専業主婦(主夫)をしている

⑤求職中である

⑥特に何もしていない

⑦その他 ( )

13. 上記8で「②卒業しなかった」と回答された場合、お子さんの現在の状況としてあてはまるものを1つ選んでください。[→回答がすみしたら36へおすすみください]

①もういちど学校に行っている

②仕事についている

③フリーターをしている

④専業主婦(主夫)をしている

⑤求職中である

⑥特に何もしていない

⑦その他 ( )

☆1ページの間2で「②高校とその後の進学の2回にわたって利用した」方は、以下からお答えください

【修学資金の利用状況についておうかがいします】

14. 修学資金を利用してお子さんが行った学校はどこですか。

最初の進学先

- ①公立高校  
 ②私立高校  
 ③高専（5年制の高等専門学校）  
 ④その他（学校名： ）
- 次の進学先
- ①国立・公立の大学  
 ②私立の大学  
 ③国立・公立の短期大学  
 ④私立の短期大学  
 ⑤国立・公立の専門学校（専修学校）  
 ⑥私立の専門学校（専修学校）  
 ⑦その他（学校名： ）
15. 借入内容を教えてください。
- ①修学費のみ  
 ②就学支度費のみ  
 ③修学費と就学支度費
16. 借入の総額はいくらですか。
- ①50万円未満  
 ②50万円～100万円未満  
 ③100万円～150万円未満  
 ④150万円～200万円未満  
 ⑤200万円～250万円未満  
 ⑥250万円～300万円未満  
 ⑦300万円以上（ ）円
17. 借入れた金額でお子さんが学校に行くのに足りませんでしたか。
- ①足りなかった → 18へおすすみください  
 ②足りた → 19へおすすみください
18. 上記17で「①足りなかった」という場合、足りない分はどうしましたか。次のそれぞれについて、「①はい」か「②いいえ」のどちらかを選んでください。（→回答がすみましたら、19へおすすみください）
- 18-（1）預貯金を使った（①はい ②いいえ）  
 18-（2）生活費を切り詰めた（①はい ②いいえ）  
 18-（3）生活保護費からおぎなった（①はい ②いいえ）  
 18-（4）お子さんがアルバイトなどをしておぎなった（①はい ②いいえ）  
 18-（5）他の奨学金や修学資金などを利用した（①はい ②いいえ）  
 （具体的に： ）  
 18-（6）授業料免除を利用した（①はい ②いいえ）  
 18-（7）親戚や知人からの援助があった（①はい ②いいえ）  
 18-（8）民間のローンなどを利用した（①はい ②いいえ）  
 （具体的に： ）  
 18-（9）おぎなえなかったため、退学した（①はい ②いいえ）  
 18-（10）その他（ ）
- 【修学資金を利用した後の状況についておうかがいします】
19. お子さんは学校を卒業しましたか。
- ①卒業した → 20へおすすみください  
 ②卒業しなかった（中途退学など） → 24へおすすみください  
 ③在学中（休学をふくむ） → 36へおすすみください
20. 上記19で「①卒業した」と回答された場合、卒業後の進路を教えてください。
- ①就職した → 21へおすすみください  
 ②進学した → 22へおすすみください  
 ③その他（ ） → 23へおすすみください
21. 上記20で「①就職した」と回答された方におうかがいします。
- 21-（1）お子さんの勤め先での雇用形態は次のどれでしたか。
- ①正社員・正職員（常勤）  
 ②派遣社員  
 ③嘱託  
 ④臨時（季節雇用も含む）  
 ⑤パートタイマー・フリーター  
 ⑥自営・内職  
 ⑦その他（ ）
- 21-（2）お子さんの仕事の内容は次のどれにあたりますか。もっともあてはまるものを1つだけ選んでください。



② 10万円～30万円未満

→ 35へおすすみください

③ 30万円～50万円未満

③在学中(休学をふくむ)

④ 50万円～100万円未満

→ 36へおすすみください

⑤ 100万円～150万円未満

⑥ 150万円～200万円未満

⑦ 200万円以上( )円

28. 借入れた金額でお子さんが学校に行くのに足りましたか。

①足りなかった → 29へおすすみください

②足りた → 30へおすすみください

29. 上記28で「①足りなかった」という場合、足りない分はどうしましたか。次のそれぞれについて、「①はい」か「②いいえ」のどちらかを選んでください。(→回答がすみしたら、30へおすすみください)

29-(1) 預貯金を使った(①はい ②いいえ)

29-(2) 生活費を切り詰めた  
(①はい ②いいえ)

29-(3) 生活保護費からおぎなった  
(①はい ②いいえ)

29-(4) お子さんがアルバイトなどをしておぎなった  
(①はい ②いいえ)

29-(5) 他の奨学金や修学資金などを利用した  
(①はい ②いいえ)  
(具体的に: )

29-(6) 授業料免除を利用した  
(①はい ②いいえ)

29-(7) 親戚や知人からの援助があった  
(①はい ②いいえ)

29-(8) 民間のローンなどを利用した  
(①はい ②いいえ)

(具体的に: )

29-(9) おぎなえなかったため、退学した  
(①はい ②いいえ)

29-(10) その他( )

【修学資金を利用した後の状況についておうかがいします】

30. お子さんは学校を卒業しましたか。

①卒業した → 31へおすすみください

②卒業しなかった(中途退学など)

31. 上記30で「①卒業した」と回答された場合、卒業後の進路を教えてください。

①就職した → 32へおすすみください

②進学した → 33へおすすみください

③その他( ) → 34へおすすみください

32. 上記31で「①就職した」と回答された方におうかがいします。

32-(1) お子さんの勤め先での雇用形態は次のどれでしたか。

①正社員・正職員(常勤)

②派遣社員

③嘱託

④臨時(季節雇用も含む)

⑤パートタイマー・フリーター

⑥自営・内職

⑦その他( )

32-(2) お子さんの仕事の内容は次のどれにあたりますか。もっともあてはまるものを1つだけ選んでください。

①専門的・技術的職業(看護師、教師、保育士、社会福祉専門職業従事者など)

②管理的職業(会社役員など)

③事務(一般事務、会計事務、集金人など)

④販売(仕入販売、不動産仲介、保険外交員、店員など)

⑤サービス(ホームヘルパー、美容師、調理人、アパート等管理人、ビル管理人など)

⑥保安職業(自衛官、警察官、消防士、警備員など)

⑦農林漁業

⑧運輸・通信(運転士、車掌など)

⑨製造・製作作業

⑩採掘・建設・労務作業(大工、とび職、配管作業、荷役、配達員、清掃員など)

⑪その他(具体的に: )

32-(3) 現在は、お子さんは何をされていますか。もっともあてはまるものを1つ選んでく



ださい。[→回答がすみましたら 36 へおすす  
みください]

- ①上記 32-(2) の仕事を続けている
- ②別の仕事についている
- ③フリーターをしている
- ④専業主婦(主夫)をしている
- ⑤学校に行っている
- ⑥特に何もしていない
- ⑦その他( )

33. 上記 31 で「②進学した」と回答された場合、  
お子さんは現在、何をされていますか。もっと  
もあてはまるものを1つ選んでください。[→回  
答がすみましたら 36 へおすすみください]

- ①現在も学校に行っている
- ②仕事についている
- ③フリーターをしている
- ④専業主婦(主夫)をしている
- ⑤求職中である
- ⑥特に何もしていない
- ⑦その他( )

34. 上記 31 で「③その他」と回答された場合、お  
子さんの現在の状況としてあてはまるものを1  
つ選んでください。[→回答がすみましたら 36  
へおすすみください]

- ①もういちど学校に行っている
- ②仕事についている
- ③フリーターをしている
- ④専業主婦(主夫)をしている
- ⑤求職中である
- ⑥特に何もしていない
- ⑦その他( )

35. 上記 30 で「②卒業しなかった」と回答された  
場合、お子さんの現在の状況としてあてはまる  
ものを1つ選んでください。[→回答がすみまし  
たら 36 へおすすみください]

- ①もういちど学校に行っている
- ②仕事についている
- ③フリーターをしている
- ④専業主婦(主夫)をしている
- ⑤求職中である

⑥特に何もしていない

⑦その他( )

☆以下からは、すべての方がお答えください。

【現在の生活状況についておうかがいします】

36. 現在、お子さんと同居していますか

- ①はい
- ②いいえ

37. お子さんは現在、どのように生活していま  
すか

- ①おもに自分の収入で生活している(共働きで  
生活している場合や、それなりの金額を家計  
に入れている場合などを含む)
- ②おもに結婚相手の収入で生活している
- ③学校に行っているので親に扶養されている
- ④学校は卒業したが親に扶養されている
- ⑤その他( )

38. あなたのご家庭は現在、どのように収入を得  
ていますか。あてはまるものをすべて選んでく  
ださい。

- ①仕事によって
- ②年金
- ③生活保護
- ④仕送り
- ⑤その他( )

39. 上記 38 で「①仕事によって」を選んだ方にお  
うかがいします。(選んでいない方は 40 へおす  
すみください)

39-(1) 中心となる収入を得ている方の、勤め  
先での雇用形態は次のうちどれですか。

①正社員・正職員(常勤)

②派遣社員

③嘱託

④臨時(季節雇用も含む)

⑤パートタイマー・フリーター

⑥自営・内職

⑦その他( )

39-(2) その方の仕事は、次のどれにあたりま  
すか。もっともあてはまるものを1つだけ選  
んでください。[→回答がすみましたら 40 へ  
おすすみください]

- ①専門的・技術的職業（看護師、教師、保育士、社会福祉専門職業従事者など）
- ②管理的職業（会社役員など）
- ③事務（一般事務、会計事務、集金人など）
- ④販売（仕入販売、不動産仲介、保険外交員、店員など）
- ⑤サービス（ホームヘルパー、美容師、調理人、アパート等管理人、ビル管理人など）
- ⑥保安職業（自衛官、警察官、消防士、警備員など）
- ⑦農林漁業
- ⑧運輸・通信（運転士、車掌など）
- ⑨製造・製作作業
- ⑩採掘・建設・労務作業（大工、とび職、配管作業、荷役、配達員、清掃員など）
- ⑪その他（具体的に： ）

40. すべての方におうかがいします。あなたのご家庭の年収（税込み）はおいくらですか。さしつかえなければお答えください。（上記 38 のすべての合計でお答えください）

- ① 200 万円未満
- ② 200～300 万円未満
- ③ 300 万円～500 万円未満
- ④ 500 万円～700 万円未満
- ⑤ 700 万円～1000 万円未満
- ⑥ 1000 万円以上

【生活福祉資金の申し込み手続きについておうかがいします】

41. この貸付制度を何で知りましたか（どこで知りましたか）

- ①民生委員
- ②ケースワーカー
- ③パンフレットや広報誌
- ④知人の紹介
- ⑤学校の紹介
- ⑥その他（ ）

42. この貸付制度の利用に、次のようなできごとが関係していましたか。それぞれについて「①はい」か「②いいえ」のどちらかを選んでください

- 42-（1）世帯主の失業 （①はい ②いいえ）
- 42-（2）世帯主の疾病 （①はい ②いいえ）
- 42-（3）世帯主以外の家族の失業 （①はい ②いいえ）
- 42-（4）世帯主以外の家族の疾病 （①はい ②いいえ）
- 42-（5）収入が少ないため （①はい ②いいえ）
- 42-（6）預貯金が不足していた（なかった）ため （①はい ②いいえ）
- 42-（7）他の負債（ローン）の返済 （①はい ②いいえ）

43. この資金を利用するにあたっての手続きはどうでしたか。以下のそれぞれについて①か②のどちらかを選んでください。

- 43-（1）申し込み手続き全般について  
（①簡単だった ②めんどろだった）
- 43-（2）必要な書類をそろえること  
（①簡単だった ②めんどろだった）
- 43-（3）貸付までの日数  
（①日数はかからなかった  
②日数がかかりすぎた）

44. 申し込みのときに、お子さんとこの資金を借りることについて話し合いましたか

- ①話し合った ②とくに話し合わなかった

45. それでは、返済については、お子さんと話し合いましたか

- ①申し込みのときに話し合った
- ②後から話し合った
- ③とくに話し合わなかった

【修学資金の返済についておうかがいします】

46. 現在、返済をしていますか（あなた以外の方が返済している場合もふくめてお答えください）

- ①現在返済している → 47 へおすすみください
- ②これから返済が始まる → 49 へおすすみください
- ③返済は終わっている → 49 へおすすみください

47. 上記 46 で「①現在返済している」と回答され

た方におうかがいします。

47-(1) 返済のお金を出しているのはどなたですか。あてはまる方をすべて選んでください。

- ①学校に行った子ども本人
- ②子どもの父母
- ③子どもの祖父母
- ④その他

47-(2) どこから返済していますか。あてはまるものをすべて選んでください

- ①給料から
- ②年金から
- ③生活保護費から
- ④預貯金から
- ⑤他から借入をして
- ⑥その他 ( )

47-(3) この借入れに関しては、返済金額はいくらですか(半年賦や年賦で返済している方は、1ヶ月あたりの金額でお答えください)

- ①5,000円未満
- ②5,000～10,000円未満
- ③10,000～15,000円未満
- ④15,000～20,000円未満
- ⑤20,000円以上 ( ) 円)

47-(4) この返済についてはどうですか。あなた以外の方が返済している場合も、わかる範囲でお答えください。

- ①非常に負担が大きい
- ②ある程度負担を感じている
- ③それほど負担ではない
- ④負担は感じていない
- ⑤わからない

47-(5) 現在、滞納をしていますか

- ①滞納していない
- ②6ヶ月未満の滞納の状態にある
- ③6ヶ月以上1年未満の滞納の状態にある
- ④1年以上滞納している
- ⑤わからない

48. この返済のために、以下のようなことはありますか。それぞれ「①はい」か「②いいえ」でお答えください。[→回答がすみしたら49へおすすみください]

48-(1) 日常の生活費を節約している

(①はい ②いいえ)

48-(2) 外出費や交際費を控えている

(①はい ②いいえ)

48-(3) 他の支払い(家賃や水道光熱費など)が遅れることがある (①はい ②いいえ)

48-(4) 貯金ができない (①はい ②いいえ)

48-(5) 他から借入をして返済している (①はい ②いいえ)

48-(6) その他 ( )

【修学資金を利用した感想をお聞かせください】

49. 修学資金(生活福祉資金)について、ご意見やご感想がございましたら、お聞かせください。( )

以上でおわりです。アンケートにご協力いただき、どうもありがとうございました。

同封の返信用封筒でご返送ください。(封筒への住所・氏名などの記入は不要です)

# 貧困・低所得家族の教育戦略の 現実から何が見えるか

— 教育社会学の課題 —

青 木 紀

## What Can We See through the Realities of Educational Strategies among Low Income Families?: A Fundamental Subject in the Sociology of Education

Osamu AOKI

【要旨】「小さな政府」が目指されようとしているわが国で生起してきているのは、これまではあまり社会問題としては取り扱われてこなかった「格差社会」「二極化社会」形成の現実である。この事実は教育社会学でも取り上げられてきている。しかし、教育費負担をめぐる不平等については、まだ正面切って議論されているとはいいがたい。そのことはまた、わが国の学校教育費をめぐる私費負担の割合は OECD 諸国の中でもとりわけ高いことに気づきつつも、その理由をめぐる分析はほとんどなされていないことと重なり合っている。本稿では、家族の「教育戦略」の根幹でもある教育費調達に焦点を当て、とくに貧困・低所得家族を対象に分析する。そこから浮き彫りになってくるのは、日本の教育費負担における「家族主義」の強固な存在である。このことを議論の俎上に載せることが、今後の教育社会学の大きな課題である。

【キーワード】 貧困・低所得, 不平等, 教育費負担, 家族主義, 教育社会学

### はじめに

本稿は、第 57 回日本教育社会学会課題研究 I「育児・教育戦略から問う家族と現代社会」(放送大学, 2005 年 9 月)における、筆者の報告「階層再生産と家族の教育戦略——貧困・低所得家族の現実から何が見えるか」をまとめたものである。

「小さな政府」を目指す政権が圧倒的な大差で勝利した中で、さらに危惧されてくるのは、「教育と家族」の関係に焦点を当てて問題の動向を予測するとき、これまで以上に「個人」「家族責任」の強化がいわれ、家族資源の格差がますます大きくなり、さらにはそれらが、子どもや若者の生活基盤の分化と不安定化、そして意識にまで悪影響を及ぼしていくことへの懸念である<sup>1</sup>。

実際、このことは、研究動向を概観する限りでも、かつては「教育ママ」「教育する家族」「家